⑥　将来における不確実性の認識

敗戦時に10年後に高度成長が訪れること、1960年代に1973年にオイルショックが起きること、1970年代後半の新冷戦の下で10年後に冷戦終結やソ連の崩壊が起きることなどを予想できた日本人は殆どいなかった。これが示すとおり、世界の構造的変化やイノベーションは、我々が考えている以上に早く大きいことがある。エネルギー需給に関する当面の情勢を顧みても、中東諸国等の地政学リスクや国際情勢、エネルギーシステムの改革、地球温暖化対策の国際的枠組み、電力価格の上昇懸念や経済・雇用への影響など余りに不確実な要素が少なくない。

エネルギーの選択に当たっては、将来についての一定の見通しを持つことは重要ではあるが、こうした不確実性を十分認識しておく必要がある。また、拘束性の強い目標の設定は最小限に止めるとともに、幅を持った想定を行い、施策の進捗や状況の変化に応じて、機動的な見直しを行うことが重要である。今後、このような観点から、エネルギーミックスに関する数字の性格付けについても検討を深める必要がある。